

<ケネス・メイナー大佐の 2020 年 11 月 15 日のビデオメッセージ (要約) >

8 週間の祈りの時を持っていますが、今週のテーマは「影響を与える生き方」です。パウロは若いテモテに手紙を書き送っていますが、その中に大切な原則が示されています。テモテ 1:2 に「願いと祈りと執り成しと感謝とをすべての人々のためにささげなさい」とあります。わたしは 16 歳の時に初めて救世軍に來ました。ある日、小隊長が隣の小隊で行われる候補生のキャンペーンに行こう、と誘ってくれました。車で 2 時間かけて候補生たちの特別集会に出席しました。光り輝くような候補生たちが素晴らしい集会を導きました。わたしは士官になるようにとの召命を感じていたので、次の集会が始まる合間に休憩室に行き、候補生たちに自己紹介しました。しかし、わたしの言葉が下手だったのかもしれない。候補生たちは厳しいことを言いました。「まだ若すぎる」「服装がきちんとしていない」「救世軍のことを何も知らないでしょ?」「クリスチャンになったばかりでしょ?」それを聞いて、わたしはとても悲しくなり、自分の座席に戻りました。わたしの家庭は貧しかったのですが、それでも一張羅を着て行ったつもりだったからです。うなだれて座っていると、後ろに座っていたエミリア・ホプキーという女性がわたしの肩に手をおいて言葉をかけてくれました。彼女はわたしと同じ小隊の高齢の戦友で、ドイツ系の移民でした。とても強いなまりのある言葉で、彼女はひとこと「あなたのために祈っているよ」と言いました。それから 44 年の月日がたちましたが、今もその光景をありありと思い出すことができます。その言葉は、わたしの人生を変えました。正直に言うと、わたしに否定的な言葉を言った候補生たちの顔を今も思い出す時があります。しかしその瞬間、わたしは「エミリア・ホプキーの祈りを感謝します」と神様に言うことができるのです。わたしたちは知人や家族や友人のために祈るべきですが、それだけでなく、自分を傷つけた人や、ひどい言葉を言ってきた人にも祈る必要があります。みなさんも苦々しい記憶と共に思い出す顔があるかもしれません。しかしどうか、その人のためにも祈り、あなたの苦々しい思いを神様にゆだねてください。いま自分は誰のために祈るべきか、神様が示してくださるよう、祈ってください。あなたも誰かのための「エミリア・ホプキー」になることを神様は期待しておられます。あなたが祈るならば、あなたの人生において、神の完全で素晴らしい御心が実現して行きます。いま世界を見ると、痛みと叫びが満ちています。しかし、わたしたちが感謝をもって周囲の人々のために祈って行くならば、この世界で神様の御心が行われていくのです。わたしたちは祈りの民です。祈りは、わたしたちの唯一の進むべき道です。大胆さと信仰と勇気をもって、祈って行きましょう。